

貨物会社は真摯に1,216筆の署名提出！ 耳を傾けるべき 労働条件に対する不満は鬱積している！

今、世界各国で「新型コロナウイルス」は拡大傾向にあり、国内では「この1、2週間が瀬戸際」とも言われている今日、感染拡大の防止策として、20春闘でも各諸行動について中止を余儀なくされる事態となっている。

しかし、春闘は集会だけではなく各職場からの取り組みの積み上げによるものであり、各職場では要請FAX・門前ビラ、分会集会などを通じて春闘が取り組まれてきた。その最たるものが、「労働条件改善署名」であり、組合員だけにとどまらず他労組組合員や組合未所属の社員を含め、現時点で1,216筆が集約されている。そして多くの地方からは今なお追加の署名が届いている。

この署名は、3月3日に行われた「各政党要請や国土交通委員および北海道・四国・九州選出議員に対する要請」終了後、貨物本社に対して「数多くの貨物社員の声」であり、第一次集約として提出した。

すでに、2019年度の落着き見込みが示される状況となっているが、貨物会社は、構造矛盾によって生み出された経営環境にくわえ、幾度となく繰り返されてきた賃金抑制の中でも、日夜奮闘してきた社員に対して、一昨年は18年ぶりの300円、昨年は200円と2年連続のベア実施は行ったが、それで相殺されるものではないことは明らかである。

20春闘では、これら社員の気持ちを受け止め「真摯」な回答を求めるものである。

職場の中ではまだまだできることはある！職場からの春闘を！

大宮車両所分会は、こうした情勢の中で「できる限りの取り組み」を行う事を執行委員会で意思統一した。現場長への要請、署名も職場の過半数以上集約し、それらを分会集会に持ち寄りながら意思統一を図っている。支部の集会は中止となったが春闘を盛り上げようと門前チラシ配布行動に執行委員全員で参加している。(大見車両所分会より投稿)



数多くの職場で「新型コロナウイルス」の感染拡大防止によって「多くの人が集まる」ことは困難であり、やもすると非難すらされる事態となっている。それで春闘は終わりではない。他労組組合員をはじめ社員との対話の中でも春闘はできる！こうした時期だからこそ、身近な所からの春闘の取り組みを考えよう！

回答予定日 3月13日